

買いと売りは別次元

複数のディーラーが同じような水準でポジションを取っても、そのポジションの閉め方で収益はかなり違う。同じようなレートで買って、売るタイミングの違いで損を出すディーラーもいれば、収益を上げるディーラーもいる。

もちろん買った水準がボトムでその後長く上昇傾向にあれば皆がプラスになるが、実際にはそんな局面はあまりなく、ロスカットをどこでするか迷ったり、利益確定が早すぎて後悔したりする。

それでも 1 年の時間の単位で見れば、収益を目標通りあるいはそれ以上に上げる者と、そうでない者の差は歴然とする。前者が優秀なディーラーとされるが、そのスキルは売りにある。(売りから入れば買いにある)

私が米銀にいたときに訪れた IMM シカゴのディーラーの言葉は今も強く印象に残っている。「市場にどこで入るかはあまり重要ではない。問題はどうかやって出るかだ」

こんなこともあった。朝のディーリングルームでのミーティングで二人のディーラーの意見が対立した。一方がロング、他方がショートのパポジションを持ったが、一日の終わりには両者とも利益を上げていた。ロスカットやポジションの倍返しなど、局面を見極めて何とか利益に繋げるのが儲かるディーラーだ。

もちろんこの逆のケースもあった。要はポジションのマネージメント力だ。

この力が特に試されるのが最近の BREXIT を巡るポンドの市場だ。スポットの取引が減少して、通貨オプションの取引が増加傾向にある。方向性を見極めるのが難しく、一般的なディーラーが取引を控える傾向にあるからだ。ポジションマネージメントのスキルのあるディーラーだけの市場になっている。

BOE の調査によれば昨年 10 月のロンドン市場での為替取引量は半年前に比べて 10% 増加したが、ポンドドルとユーロポンドは逆にそれぞれ 8%、7% と減少した。この傾向はその後も強まっている感じがする。

ではその売りのスキルあるいはポジションマネージメント力は具体的に何か。一言で言えば、ポジションの見極めの早さだ。アゲインストのポジションを長く持ちこたえ、時にはナンピンをしたりして、どうにか利食いをする水準まで待つディーラーもいる。損失の実現を恐れるあまりその間の機会収益を逸している。優秀なディーラーにこうしたタイプはいない。その逆だ。

とは言っても私自身現在のポンドに手は出したくない。